

## 9 リハビリテーション看護を提供する看護師の「専門的機能」と「自己実現」の関連

看護部 2 階病棟 赤川詠子 中嶋直美 渡伸栄

【研究目的】リハ専門病院における看護師の「専門的機能」と「自己実現」の関連を明らかにし、看護師免許取得後年数と当病院勤務年数からみた「専門的機能」と「自己実現」との関連を明らかにすること。

【研究方法】関連検証型研究デザインをとり、当病院看護師 54 人を対象とし、質問紙法によりデータ収集した。「基本属性」として年齢、看護師免許取得後年数、当病院勤務年数を「専門的機能」石鍋らの「リハビリテーション看護の専門的機能」測定ツールを使用「自己実現」については中山らの「看護師としての自己実現スケール」を使用。各質問項目の記述統計を算定後、専門的機能、自己実現については正規性の検定を行い相関を算定。当病院勤務年数、看護師免許取得後年数を 10 年以上と未満の 2 群に分け、マン・ホイットニーの U 検定を行った。

【倫理的配慮】当病院倫理委員会の承認を得て行い、研究参加は個人の自由意志とし、不参加により不利益が生じないことを保証し、データは個人が特定できないように処理し併せて結果公表の了承を得た。

【結果】結果、質問紙の回答は 49 人から得られた(回収率 90.7%，有効回答率 100%)。対象者の背景は、対象者は若年層が少なく、年代は 40 代以上が 27 人(55.1%)を占めた。看護師免許取得後の年数は、15 年以上が 25 人(51.0%)を占め、当病院の勤務年数 10 年未満は 25 人(51.0%)、10 年以上が 24 人(49.0%)であった。「専門的機能」のカテゴリー別得点結果として、「療養環境整備」の平均値が 4.2 点と高く、「使命感」「変革力」の平均値が 2.3 点と低い結果だった。「専門的機能」と「自己実現」においては、有意な正の相関で( $r=0.584, p=2.37 \times 10^{-10}$ )、専門的機能が高ければ、自己実現も高いという結果であった。看護師免許取得後年数は、専門的機能に相関は見られなかったが、自己実現と弱い相関が見られた( $r=0.209, p=9.72 \times 10^{-3}$ )。看護師免許取得後年数 10 年未満と 10 年以上の 2 群に分けて、中央値の差の検定(マン・ホイットニー U 検定)で、専門的機能( $Z=2.217 > 1.96$ )に差が認められ、10 年以上の群で専門的機能が高いことが明らかになった。自己実現は差が認められなかった。当病院勤務年数では、専門的機能( $Z=2.181 > 1.65$ )および自己実現( $Z=2.074 > 1.65$ )の両方で 2 群に差がみられ、10 年以上の群は 10 年未満の群よりも専門的機能を有し、自己実現をしていることが明らかになった。

【考察】1. リハ看護を提供する上で、自己実現の意識を持つことは、リハ看護の専門的機能の提供に関連すると考える。2. 当病院のリハ看護師としての経験年数は、専門的機能・自己実現に影響することが明らかとなった。臨床教育の観点から着目すると、経験年数が低い看護師の成長欲求に働きかけ、研修や教育に重視する必要があることも明らかとなった。先行研究と同様の結果が確認できたことから、経験年数が低い看護師の成長欲求に働きかけ、研修や教育に重視する必要があると考える。